



No.73 2002.1

発行 京都府立医科大学

〒602-8566 京都市上京区河原町通

広小路上ル梶井町465

TEL 075-251-5210 FAX 075-211-7093

平成14年知事年頭あいさつ

万感胸に 明日の京都を想う

京都府知事 荒巻 禎一

府民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

私たちは1年前、厳しい中にも希望を胸に21世紀を迎えました。この1年の間には、同時多発テロ事件やその後の紛争など想像を絶する新たな危機や課題に直面いたしました。それらは我が国の経済や国民生活にも今なお大きな影を落としています。

京都府におきましても、地域経済をはじめ現下の情勢は極めて厳しい状況が続いておりますが、不況・雇用対策や伝統産業の活性化、新しい分野の産業の育成・支援、企業誘致などに全力を挙げて取り組んでおります。

また昨年1月には、府民の皆さまの参画を得て策定した新世紀の京都府への道筋をつける「新京都府総合計画」をスタートさせ、福祉、健康、環境、災害、事件、事故などさまざまな問題にも的確に対処し府民の「安心・安全」を最重点に、積極的な府政の展開を図っているところです。

一方、明るい未来を予感させる動きも見られます。関西文化学術研究都市では今秋に国立国会図書館関西館（仮称）が開館す

るのをはじめ、京都の伝統文化や産業が最大限活用される京都迎賓館の建設も本格化し、京都縦貫自動車道などの道路網の整備もその完成に向け着々と進んでいます。

さらに、地球温暖化防止のための「京都議定書」の本年発効への動きや、京都パブルサンガのJ1リーグ復帰は、智恵と力を結集し果敢に挑戦すれば、いかなる難局も克服できることを私たちに示しております。

私は知事就任以来16年にわたり、「府域の均衡ある発展」、「安心・安全」、「公平・公正」を基本姿勢に、府民の目線に立ち、新世紀を見据え、府民が主役の住みよい社会づくりに邁進してまいりました。この間、先人の蔭かれた種を大切に育てつつ、私自身も府民の信託のもとで独自の施策を実施し、開花、結実させることができたことと存じております。

同時に「むすびあい、ともにひらく新世紀・京都」の基本理念で進められる21世紀の京都府づくりにも数多くの新たな種を蒔くことができました今、新しい世紀は新しい人、新しいところに託すべきと決意いた



しました。

私といたしましては、残された任期の中で、地方分権に即した行財政改革をより進め府民に信頼される京都府行政の確立を図るとともに、府民生活に直結する緊急課題の解決に全身全霊を傾けてまいりたいと存じます。

府民の皆さまへのお世話になった御礼は、任期満了の折にさせていただくこととして、新年にあたり、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

目次

1 知事年頭のあいさつ	1	5 学内ニュース	
2 学長年頭のあいさつ	2	・公開講座(報告)	5・6
3 医療センター30周年記念式典(報告)	3	・トリアス祭(報告)	7・8
4 病院ボランティアについて	4	6 特集	
		看護診断について	9
		7 医大2001年を振り返って	10

学長年頭あいさつ

本学の新しい転換期に向けて

学長 井端泰彦



新年明けましておめでとうございます。本学構成員の皆様方に新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は新しいミレニアムの幕開けの年でありましたが、国内では4月の小泉内閣の発足以来構造改革が推進される中で、企業倒産の増加や失業率が過去最高となるなど、政治経済ともに不安定な状況にあります。国外では9月11日にニューヨーク、ワシントンで同時多発テロが起き、それに続く米英両国によるアフガニスタン空爆により多数の犠牲者と難民が出るという散々な年でありました。そのような中、年末の12月1日に新内親王愛子様御誕生という唯一ともいえる嬉しいニュースがありました。

本学も昨年は、脳・血管系老化研究センター設立10周年、医療センター設立30周年を迎えました。それぞれ3月17日並びに11月28日に記念式典を開催し、また記念誌なども刊行させていただきました。

昨年はいろいろな職場におきまして、本学のためにいろいろと御尽力いただきました本学構成員の皆様方に心より御礼申し上げます。

今年も医学、医療、看護を取り巻く状況は、昨年同様大変厳しくかつ変化することが予想されます。4月には京都府で最初の4年制の看護学科がスタートいたします。即ち、本学は医学部医学科と看護学科の2

つの学科となります。医学の卒前卒後教育も試験も含め大きく変わろうとしている中で、学生部長、病院長を中心としてその対応が急がれます。また、大学院重点化についても現在研究部長を中心に進めておりますが、これについても本年6月頃に文部科学省へ正式申請書類を提出する予定であり、来年4月には実施してまいりたいと思っております。また、皆様も新聞紙上で御存じのようにいわゆる遠山プランの全国国公立大学分野別ベスト30の選定による研究教育資金の重点配分がございます。単科の医科大学としてはなかなか困難な点もあるかと思いますが、本学の優秀な教員が知恵をしばり本学の研究、教育、診療の特徴を十二分に生かした申請書を作成し、何とかベスト30を目指したいと考えます。

その他にも、内科、外科のディビジョン制をより完成されたものにする、移植医療への対応、ポストゲノム研究の推進、産学連携や教員の兼業、TLOの利用など課題が山積しております。また、昨年末から入院におけるオーダリングシステムが稼働し、本年1月末より外来におけるオーダリングシステムが稼働いたします。これも最初は慣れるまでが大変だと思っておりますが、出来るだけ早く軌道に乗せて患者サービスと共に診療の効率化と経営改善に持っていく必要があります。本学は昨秋より院内全面禁煙と病院ボランティアを開始いたしましたが、これも軌道に乗ることを願っております。

また、病院の整備につきましては、外来棟一階ロビーの座席数の増加、照明の改善、床・天井の塗装、オープンカウンター化など、当面の応急整備に着手しておりますが、近い将来外来棟、臨床研究棟の全面改築による整備を京都府にお願いし、実現したい

と思っております。それには一方では病院の経営改善が問われておりますので、診療、看護に関わっておられる方々には、是非御協力をお願いいたします。

さらに平成16年より国立大学独立行政法人化のもとに、国立大学の独立行政法人化が決まっておりますが、公立大学につきましても一年遅れの平成17年より法人化されることが予想されます。法人化されますと公立大学の場合、設置都道府県より一定の補助金を受けた後、運営については独自のやり方で企業からの寄付や連携などを得ながら行ってゆくことになります。今までの種々の規制は大きく緩和されると考えますが、経営においては独自で解決していく必要があります。これに対応すべく京都府の公立大学が将来どのような大学を目指すべきであるかについて、本学と府立大学、設置者である京都府、京都府の有識者、府民の代表者などで構成される懇話会が設置されました。今後、この懇話会の意見も聴きながら、本学が京都府の医学、医療、看護、福祉、府民の生涯教育を担う大学としてどのような方向に向かっていくべきか、府民に信頼される大学としていかに発展すべきかについていろいろと思索せねばならないと考えます。

以上述べましたように、非常に多難な時ではありますが、本学の全構成員の方々が自分の仕事に自覚と責任を持ち一丸となって努力していただきたいと存じます。そうすればきっと前途に光明が見つかると思っております。私も一生懸命舵取りを行いますのでよろしく御支援・御協力をお願い申し上げます。それでは皆様の御健勝を祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。

医療センター30周年記念式典

医療センターは、本学がもっている高度な教育、研究の成果及び医療を社会に還元し、また、逆に社会から要求される医療の問題、医療過疎に広く対応するための機関として、昭和46年6月に府立医科大学の附属施設として設置されました。

この度、医療センターの設立30周年を迎えたことから、平成13年11月28日(水)、京都市上京区のルビノ京都堀川において設立30周年記念式典が開催されました。

はじめに、井端泰彦学長から挨拶があり、本学の設置者である京都府を代表して、山田啓二副知事から御祝辞をいただきました。

医療センター所長である精神医学教室の福居顯二教授からは、昭和46年の医療センター設立から現在に至るまでの活動状況、今後の医療センターの在り方等について報告がなされました。

引き続き、医療センターの所員として多年にわたり地域医療の確保及び保健福祉行政の推進に貢献いただいた方々に対し、京都府知事からの感謝状が贈呈されました。感謝状は10周年・20周年の記念式典においても同様に贈呈されておりますが、今回は73名の方々に対し贈呈されることとなり、元府立舞鶴療育センター所長の平澤泰介名誉教授、府立心身障害者福祉センター所長である脳・血管系老化研究センター神経内科学部門の中島健二教授、向陽保健所の衣笠昭彦所長、与謝の海病院の内藤和世副院長の4名の方々に代表としてお受けいただきました。

当日は、栗山欣弥前学長をはじめ、谷道之初代医療センター所長ほか歴代所長にも御出席いただき、センター所員としての派遣経験者、現在各保健所や与謝の海病院、洛東病院で勤務いただいている先生方など総勢137名の盛大な式典となりました。

また、記念式典に引き続き行われた懇談会では、現在は京都府関係以外の医療機関や大学等でご活躍されている先生方と旧交を温める場面も見られ、出席者それぞれが派遣当時の苦労や今後の医療センターへの思いについて活発に意見交換されるなど、意義深いものとなりました。



学長あいさつ



知事祝辞(山田副知事)



医療センター所長の経過報告



知事感謝状贈呈

病院ボランティアの導入について

附属病院では、平成13年11月9日(金)から、病院ボランティアの方が活動をされています。

病院ボランティアは、患者さんがより良い状態で治療を受けることができるよう、ボランティアの方の自主性、自発性に基づく活動を受け入れることとしたものです。

活動内容としては、玄関ホールにおいて、来院された患者さんが、不慣れ等により戸惑っておられる場合などに、声かけをし、その患者さんが円滑に受診できるよう援助するというもので、主に初診の患者さんの受付手続の案内や院内の施設案内等をされています。

ボランティア活動はこの病院が初めてという方に感想を聞いたところ、「困っておられる方の役に立てた時はとても嬉しく患者さんや職員の方から、『ご苦労様』、『ありがとう』、『がんばってください』と話しかけられ、ボランティア活動をはじめて良かったと感じています」とのこと。

現在は交替で1日当たり2名から4名の方が、名札を付け、緑のエプロンを着用して活動しておられます。

どうか皆さんも、気軽にあいさつ等、声をかけてあげてください。



初診の患者さんに記入の仕方を説明している様子



活動中の病院ボランティアの方

学内ニュース

平成13年度京都府立医科大学公開講座を振り返って

平成13年度の京都府立医科大学公開講座は、10月14日(日)に宮津市にある「みやづ歴史の館」で、11月12(月)、13日(火)に本学図書館ホールで開催されました。

特に宮津市での公開講座では、医療センター30周年記念事業として、府立与謝の海病院との共催のもと、1市4町等の御後援、各関係機関の多大な御協力をいただく中で開催されました。テーマは「身近にある最新医療」。がん治療、脳機能の再生、新生児医療、痴呆の治療に関する最新医療について、各講師の先生方がスライドやビデオ

を使ってわかりやすく解説をされ、大変好評でした。また、当日は250名もの参加があり、盛況のうちに終えることができました。

本学図書館ホールで開催された公開講座では、2日間に渡って開催され、「ここまで進んだ先端医療」「からだの痛み、こころの痛み」をテーマに講演が行われました。1日目は、心臓手術、肥満症治療、がん化学療法、糖尿病の外科的治療に関する最新医療が紹介され、2日目は、治療に伴う痛みの緩和や、精神的サポート、心のケアに

ついて解説がされました。両日で延べ609名の参加があり、大盛況でした。

アンケートを実施した結果、97.3%が有意義であった、97.4%が次回もまた参加したいとの回答されています。

また、参加者からは、「医学の進歩に大変驚いた」「府立医大も頑張っているのだなと思った」「府民に開かれた公開講座をいつまでも続けてください」等の声が寄せられた一方、「もっと回数を増やしてほしい」「各講演をもっと時間をかけて聞きたい」等の意見・要望も聞かれました。



医療センター所長のあいさつ



(みやづ歴史の館)

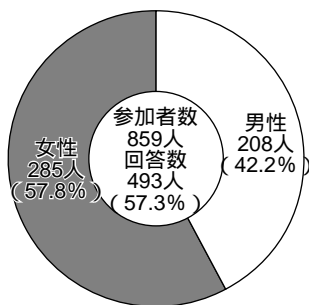


熱心に受講する参加者の皆さん

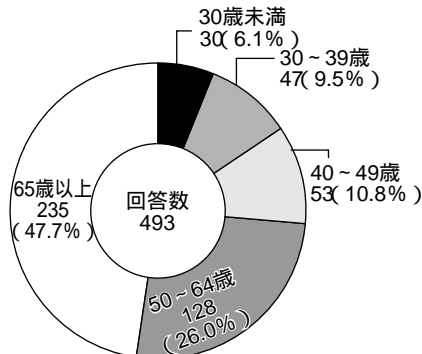
(本学図書館ホール)

アンケート結果

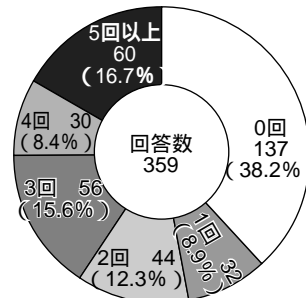
1 性別



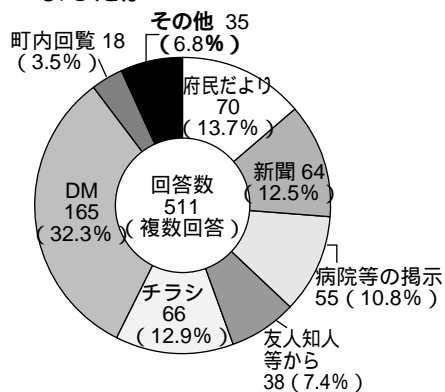
2 年齢



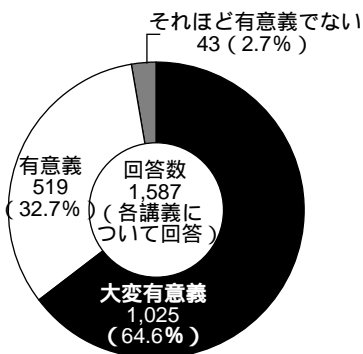
3 昨年までにこの公開講座を受講したことがありますか



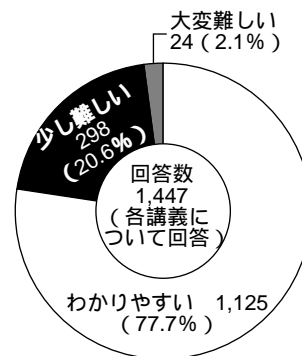
4 今回この公開講座を何で知りましたか



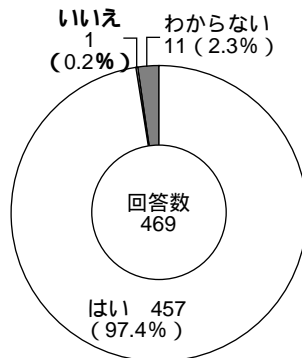
5 講義内容



6 講義方法



7 再び参加しようと思われませんか



学内ニュース

2001年度トリアス祭を終えて

-- 私たちの得た「絆」 --

実行委員会副委員長 山田 丈弘(4学年)

本当に激動の一年でした。私たち実行委員がトリアス祭を終えて、今率直に思うことです。3月に実行委員会を発足して以来、生活がトリアスを中心に回っていた、といっても過言ではありません。本祭の直前ともなれば、それこそ寝る間も惜しみ、夜が白むまで作業を続けた日もありました。これほどの時間と労力を割いてトリアス祭が行われ、引き継がれている意義は何なのでしょう。

毎年言われ続けていることですが、トリアスという名には学生、教職員の方々、患者さん・府民のみなさん、この三者の融和を目指すという意味が込められています。これこそが、トリアス祭の最大のテーマなのです。学生によって行われますが、学生だけが楽しむような自己満足の祭りではないのです。今年度は実行委員会の組織を students の S、teachers の T、people and patients としての P を頭文字に、S、T、P のブロックに分け、それぞれのもので企画を練り、運営することで各企画の目的をも

っと明確にしようと努めました。

トリアス祭の期間だけでなく、6月と10月に行ったナイトラウンジや、10月中に行われたスポーツ大会では学生はもちろん、先生方の多数の参加が得られ、特にスポーツ大会では予想以上のチーム数のため、運営に多少手間取ることもありました。

11月1日に仮装行列と前夜祭を行い、2、3、4日と本祭を行いました。女優の東ちずるさんによる講演会を行うこともあって、多数の来場が見込まれた3日には、天候が悪く風も強かったためか客足が伸びなかったのは残念でした。しかし、全体としては例年行っているオープンキャンパスや医療展などの評判がよく、全日程を通しての来客数は例年を上回り、各企画とも盛り上がったように思われます。

準備期間、本祭中、また終わった後も、多くの方々に御迷惑をおかけしましたが、御理解と御協力を頂くことで成功に導くことができました。本当にありがとうございます。とくに、井端学長、高松学生部長を

始め各教室の先生方には後述にある「それが聞きたい！」などへも御参加いただき、講義だけでは得られないことを学ばせていただきました。さらに学生課を始め、大学の職員の方々、そして病院の職員の方々には普段から大変お世話になっているのですが、トリアス祭に関わらなければそんなことを感じることも、またみなさんと言葉を交わすことさえまならなかったと思います。

そして、1年間、ともに活動してきた実行委員会の面々とはお互いの意見や気持ちまでぶつけ合って喧嘩をしたことが何度もあったぐらい、表面上の付き合いだけでない、本当に仲間とよべる関係を築くことにもなりました。

すべてこのトリアス祭がもたらしてくれた財産です。これが私達学生だけのものとなるのではなく、今後もトリアスに謳われる三者の間に育まれる絆となることを祈りたいと思います。



実行委員会の面々

学内ニュース

2001年度トリアス祭を終えて

「それが聞きたい！」

部門長 和田 幹 生(4学年)

先生方と学生の双方が参加できるものとして、本年度は、「それが聞きたい！」という企画を行いました。何人かの先生方に御登場いただき、様々なことを学生達と話していただこうというものです。

1日目は、『ざっくばらんに“先生ってどんなヒト？”』というタイトルにて行いました。こちらへは、井端学長をはじめ、医大・医短から事前の学生アンケートを元をお願いした計6名の先生方に御出演いただきました。約1時間ほどにわたって、先生方それぞれの学生時代の話や学生からのアンケートへのお答えをいただくなど、普段の講義などとは一味違った面をお伺いすることが出来ました。

また、2日目は、『たまには真剣に“医学生これからってどうなるの？”』ということで行いました。こちらの方へは、高松学生部長をはじめ教育委員会の先生方に御出演いただき、今後の医学カリキュラムについて、学生ともども熱っぽく語り合っていました。両日とも参加していただいた先生方にも学生たちにも御好評いただくことが出来たのではないかと考えております。



熱く語り合う先生方と学生



特集

看護診断について

- 看護支援システム導入まであとわずか、新時代への第一歩を踏み出しましょう -

新年、明けましておめでとうございます。
こども外来に勤務している小城です。

現在、全国で、また全世界で「IT化」が進められています。私達の府立医大病院もその例外ではなく、コンピューター導入に向けて、数年前より検討されてきました。昨年11月には、病棟でのオーダリングが開始され、今年3月の全面稼働に向けて日夜努力されておられることと思います。

私達は、3月稼働時に導入される看護支援システムに関して小寺副看護部長をはじめ3名の婦長、2名の主任(私を含む)の6名で、平成12年春よりチームを組み、話し合いを続けています。そこで、現在までの活動内容をお伝えしようと思います。

看護というのは、患者さんの情報収集から始まり、問題の洗い出し、看護計画の立案、さまざまなケアと実施後の反応などの記録、総括された評価があります。そのうち、私達が考える患者さんの問題を「看護診断」と呼びます。「看護診断」とは読んで字のごとく「看護における診断」です。つまり、私達看護職が、患者さんにケアするとき、どのようなことを予測し、どのようなケアをしていけばより良くなるのかを考えて、多くの情報からいくつかの診断名を挙げていきます。医師の方々が行われている診断に該当すると考えていただければよいかと思います。ですから、一人の患者さんに対し、先生方は治療面から、私達は看護面からそれぞれ診断名をつけることとなります。患者さんの情報、看護診断をはじめ看護に関する全てのことを記録したものが「看護記録」です。これらすべてのことをコンピューターにシステム化していく作業が必要になりました。この機会に、私達が現在行っている看護診断やケアを、全国・全世界で通用する共通用語で表現されているもの、系統化されているものなど、さまざまな観点から検討する必要性がありました。月に1~2回集まりを持ち(現在は週1回以上)文献、資料から知識を会得すると同時に、看護診断学会・コンピューター導入済みである病院の方たちの研究会への出席など多忙な日々を過ごし、約1年をかけて選定・検討した結果、昨年の春、看護診断に「NANDA」、看護目標に「NOC」、看護介入に「NIC」を使用することにしま

した。

「NANDA」というのは、「NANDA 看護診断」が正式名称で、北米看護診断協会が開発し、隔年に開催される全世界レベル規模の大会で検討され続けています。また、「NOC(看護成果分類)」「NIC(看護介入分類)」は、アイオワ大学で開発され、それぞれNOC研究プロジェクトチームとNIC研究プロジェクトチームに分かれていましたが、数年前よりNANDAと連携して看護診断拡大分類チームを結成し、検討が加えられるようになりました。

基本ベースが決定した後は、モデル計画を作成し、それを基に旧看護計画から新看護計画への移行方法の説明を、婦長会議・主任会議・監査委員会・各種経年研修などで行うとともに、病棟単位の指導も行いました。その後も、各病棟からの要請に応じて、随時指導を行い、昨年末からは病棟スタッフより提出された新方式による看護計画を添削し、再度、各病棟で検討をする作業を繰り返しているところです。

一方、看護計画を立案するには当然情報収集が必要になります。新方式が一番導きやすい情報収集用紙(データベース)となると、既存のものではうまく看護診断を導き出すことが難しいため、新しく作成することとなりました。ほかに、実際の稼働時に、少しでも作業が少なくてすむようなシステム画面の検討も重ねています。

今は、看護支援システムマスターへの登録に向けてラストスパートしている状態ですが、病棟から提出された看護計画をより完成度の高いものになるよう最終チェック



こども外来 小城智圭子

を加えた結果、一部はシステムマスターへの登録を待つのみとなっているものも出来ました。

3月稼働まで、もう時間はありませんが、少しでも良いものを、少しでも患者さんのケア時間が作れるようにと願いつつ、がんばっています。廊下で、多くの本と資料を抱えて、フーフーいながら歩いているのは、私達6名です。見かけられたら、がんばってるなあとお見守ってください。

最後に、私達の欲張りとも思える要求を、叶えて頂いている医事収納課の方ならびに富士通関係者の方に感謝いたします。また、重箱の隅を突付くような私達の指導にもめげず、精力的に看護計画の作成に努力してくれている病棟スタッフの皆様ありがとうございます。皆様のおかげで、もう少しで出来上がります。楽しみにしててください。



医大2001年を振り返って

2001年を振り返って、本学の主な出来事をご紹介します。(学事関連、 府、教職員関連の出来事)

<p>1月</p> <p>20 大学入試センター試験(～21)</p> <p>24 エディンバラ大学派遣説明会</p> <p>30 平成13年度大学院入学試験(2次日程試験)</p> <p>1 「新京都府総合計画」スタート</p> <p>12 基礎医学学舎実習棟竣工</p> <p>2月</p> <p>2 短大専攻科入学試験</p> <p>16 短大専攻科入学試験合格発表</p> <p>22 保健婦国家試験</p> <p>23 助産婦国家試験</p> <p>23 平成13年度大学院入学試験(2次日程試験)合格発表</p> <p>25 看護婦国家試験</p> <p>25 大学入試(前期日程試験、筆答・面接)(～26)</p> <p>21 2月府議会定例会(～3/28)</p> <p>3月</p> <p>2 大学卒業式・大学院修了式</p> <p>3 短大看護学科一般入試(～4)</p> <p>8 大学入試(前期日程試験)最終合格発表</p> <p>9 短大卒業式</p> <p>12 大学入試(後期日程試験、筆答・面接)</p> <p>16 短大看護学科入試(一般)合格発表</p> <p>17 医師国家試験(～19)</p> <p>23 大学入試(後期日程試験)最終合格発表</p> <p>30 看護婦、保健婦、助産婦国家試験合格発表</p> <p>17 附属脳・血管系老化研究センター設立10周年記念講演会</p> <p>4月</p> <p>4 短大入学式</p> <p>5 大学入学式</p> <p>6 大学院入学式</p> <p>17 歯科医師国家試験合格発表</p> <p>21 大学新入生宿泊研修(～22、ゼミナールハウス)</p> <p>26 医師国家試験合格発表</p> <p>28 対東京慈恵会医科大学定期戦(～5/3・東京)</p> <p>1 中川病院長就任</p> <p>1 附属病院経営改善推進事務局設置</p> <p>1 府職員定期人事異動</p> <p>10 新規採用職員部局別研修</p> <p>26 教授停年退職記念式典</p> <p>5月</p> <p>19 解剖体春季追悼式</p> <p>7 研修医オリエンテーション(～9)</p> <p>12 看護の日</p> <p>23 医大ポーリング大会</p> <p>6月</p> <p>11 6月府議会定例会(～27)</p> <p>19 京都府庁開庁記念日</p> <p>21 第13回院内コンサート</p> <p>28 山田副知事就任</p>	<p>7月</p> <p>11 学長と新入生の懇談会</p> <p>29 西日本医科大学生総合体育大会(～8/12)</p> <p>31 短大、単位互換制度提供科目授業実施(～8/1)</p> <p>9 12年度附属脳・血管系老化研究センタープロジェクト及びテーマ研究成果発表会</p> <p>10 医大スポーツ祭典(～25)</p> <p>29 参議院議員選挙</p> <p>8月</p> <p>1 大学、単位互換制度提供科目事業実施(～2)</p> <p>6 平成14年度研修医募集要項告示</p> <p>30 短大人権・同和教育講座(～31)</p> <p>1 内科病棟ディビジョン開始</p> <p>21 教職員人権啓発研修(23)</p> <p>25 関係病院等協議会総会</p> <p>26 京都府総合防災訓練(大宮町ほか)</p> <p>9月</p> <p>6 大学院入学試験募集説明会</p> <p>28 エディンバラ大学派遣学生報告会</p> <p>11 米国同時多発テロ発生</p> <p>21 9月府議会定例会(～10/10)</p> <p>医学看護学科の設置を文部省に届出</p> <p>10月</p> <p>16 看護婦(士)採用選考試験(第一次)</p> <p>20 解剖体秋季追悼式</p> <p>21 平成14年度研修医試験</p> <p>26 平成14年度大学院入学試験(1次日程試験)</p> <p>8 第14回院内コンサート</p> <p>10 厚生会テーブルマナー講習会</p> <p>14 医療センター設立30周年記念府立医科大学公開講座(宮津市)</p> <p>15 附属病院内が全面禁煙化</p> <p>27 職員ふれあいフェスタ(太陽が丘)</p> <p>30 医大消防訓練(C4病舎)</p> <p>31 教職員人権啓発研修(11/7,12,19)</p> <p>ヒトゲノム・遺伝子解析研究等倫理委員会の設置</p> <p>11月</p> <p>1 本学創立記念日</p> <p>1 トリアス祭前夜祭</p> <p>2 トリアス祭(～4)</p> <p>9 研修医試験合格発表</p> <p>26 エディンバラ大学派遣説明会</p> <p>26 大学院入学試験(1次日程試験)合格発表</p> <p>28 看護婦(士)採用選考試験(第二次)(～30)</p> <p>6 入院オーダリングシステムリハーサル(9,15,16)</p> <p>9 病院ボランティア制度開始</p> <p>12 府立医科大学公開講座(～13)</p> <p>26 附属病院オーダリングシステム稼働(入院系)</p> <p>28 医療センター設立30周年記念式典</p> <p>12月</p> <p>13 学位授与式</p> <p>20 医学部看護学科の設置届出書を文部科学省が受理</p> <p>看護婦等養成学校の指定</p> <p>22 第3回医学教育ワークショップ</p> <p>3 12月府議会定例会(～18)</p> <p>3 禁煙啓発研修(～5)</p> <p>24 第15回院内コンサート「クリスマスコンサート」</p>
--	---